

平成 30 年度

文部科学省指定

「次世代の学習ニーズを踏まえた
指導充実に関する研究」報告書

岡山県美作高等学校

目 次

1. はじめに 調査研究の目的、内容について
2. 実践内容
3. 成果
4. 課題 次年度に向けた取り組み

1. はじめに

調査研究課題名

過疎地と共生する通信制生徒の学習支援事業

～人口減少が続く地域における地域が学校 地域人が先生

そして産・官・学協定事業で地域のこどもを地域が育てる～

調査研究のねらい

過疎化・人口流出が続く地域においては、依然として不登校をはじめとする特別な支援を必要とする生徒が減少していない実情がある。将来、本当の意味でも地域を支える人材は、このような生徒である考える。そして、教科書からだけの知識を身につけた生徒だけでなく、人とのふれあいから学ぶ知識の両方を身につけた生徒の育成を目指す。「地域が学校 地域人が先生」という観点から、今まで日本社会を支えてきた地元の高齢者を指導者に加えた教育活動を実践していき、そして継続的な調査研究が行えるよう、大学教授や行政関係者と連携した活動とする。今回、次世代の学習ニーズを踏まえた指導における「特別な支援を必要とする生徒」を不登校やひきこもり、発達障害など特別支援教育に該当する生徒と位置づけ調査研究を進めていく。

調査の概要

(1) ひきこもり、無職・無就学生徒の解消に向けた教育の実践 定員 10 名とした、ひきこもりや無職・無就学生徒のための学習教室（名称 ネスト）を開校し、学習及び社会支援活動を行う。その際、地域人材を活用し、地域人が教師役となり、学習支援や庭木の剪定作業、郷土料理の調理などを教授する。(2) 不登校、引きこもり等の生徒及び家族のための本作成 不登校で苦しむ家族や生徒本人が抜け出すきっかけとする活動を目指す。(3) 高卒資格を持つ人への再教育の場 概ね 30 歳までの若者に対する再教育を実践する。自己肯定感の回復、再度学びに向かう意欲の醸成を目指す活動となる。学習内容は、国語、社会などの 5 教科の学び直し事業だけでなく、就労活動支援としてハローワーク等との連携を行

い、就労活動や経営者になる講話などを取り入れる。また、新聞記者によるN I E活動、(1)と同様に、地域人による講義などを実施する。(4) 閉校した学校の活用 校内で就業体験ができることを最大限のメリットと考え、農産加工会社での就業体験（インターンシップ）を実施する。(5) 教員不足解消 自学自習というスタイルを用いて、教室に教師がいない場面でも学習することができる活動を実践する。生徒は、タブレットを用いて、株式会社クラッシーの学習動画やNHK高校講座の視聴を行う。その際、質問などはメールやLINEを用いる。教師は、学校にいながら生徒への対応が可能となる。

調査研究メンバー

担当者氏名	所属研究機関 部局・職名	具体的な役割分担
山下 武宏	通信制課程 教頭	責任者
友光 美帆	教諭	不登校生徒本作成担当
村山 直人	教諭	教員不足の解消担当
小林 泉	講師	学習教室（ネスト）担当
太田 知里	教諭	再教育の場担当
渡辺 紀一郎	講師	閉校した学校の活用
木村 みどり	非常勤講師	再教育の場担当
竹内 正人	事務室長	事務責任者 経理担当
山本 昭恵	司書・事務職員	事務補助
仲田 智子	教育相談課長	不登校生徒本作成担当
大下 真弘	全日制教諭	不登校生徒本作成担当
高橋 典子	全日制教諭	不登校生徒本作成担当
樋口 方江	全日制教諭・教育相談	学習教室（ネスト）担当
川崎 雅史	地域相談員	再教育の場担当

2. 実践内容

1. 次世代学習ニーズに関する研究報告

(1) ひきこもり、無職・無就学生徒の解消に向けた教育の実践

学習教室（ネスト）の開校

1. 6月から3月まで計16回のスクーリングを実施した。参加者は、2～3名となっている状態であるが、自学自習を中心とした学習を行っている。また、後半に入り、iPadを用いた学習にも取り組み、多角的な学習を継続している。



2. 夏休み集中講義として、8月6日から3日間、地元人と本校通信制課程生徒との合同学習会を実施した。参加生徒は、のべ10名。（すべて本校全日制・通信制生徒であった。）不登校傾向の生徒の参加が多く、地元の方との勉強会やインターンシップ講話を体験し、充実した時間を過ごすことができた。また、鏡野町地域包括支援センター職員による講話と一緒に学習し、心が打ち解けたあと、本校職員によるレクリエーションを体験し、有意義な時間を過ごすことができた。



iPadを使用する様子／地元人とレクリエーション交流

3. 冬休み集中講義として、クリスマス会と称した会を実施した。地域人材の活用として、社会福祉協議会会長によるギター講習及び歌唱指導。また、地元人が教師役を務め、方言に関する指導を行った。その後、生徒が特技を活かして、折り紙の指導を行った。ちょうどクリスマス前ということもあり、サンタクロースとトナカイの指導を地元人に行った。



ギター演奏で心を癒やし



地域人より方言について教えてもらい



生徒が折り紙の講師役を生徒が務めた

(2) 不登校、引きこもり等の生徒及び家族のための本作成

現在作成中

年3回の実行委員会の様子をまとめる

委員長 友光 美帆 副委員長 山下 武宏 (教頭) 委員 仲田 智子
委員 高橋 典子 委員 大下 真弘 委員 村山 直人

平成31年8月発刊に向けて準備を継続している。

成果物として、生徒の作品の一部を紹介する。

「出産を経験してからの夢への一步～ミカさんの挑戦～」

夢が見つかる

「最近の若者」という言葉は、どの時代でもよく使われることである。私も、50歳を迎えたが、私の若い時にも、この言葉はよく使われた。私たちの時代には、「新人類」という言葉が流行った。そんな中、現代の若者は、「どうせ、自分の将来など見通しが暗い。」や「夢なんかない。」と答える生徒が多い。

しかし、ミカさんは、出産を経験して自分の夢が見つかった生徒であった。

彼女は、16歳の時、妊娠がわかり公立高校を中退した。私は、彼女を担当していたが、入学時はそのことは知らなかった。彼女が卒業を目指す秋に進学する希望を私に伝えてきた。「保育士になりたい。」そのためには、地元の美作短期大学への進学を希望した。振り返ってみると、当時は保育士をはじめとした短大への進学が高くなっており、美作短大は、西日本の短大で、京都女子短大、武庫川短大に次ぐ、3番目に入学するのが難しくなっていた。同じ法人内であるため、多少は推薦入試などでは有利になることもあるが、なかなか難しい状況だった。11月の推薦入試では、やはり不合格。厳しい結果となりました。可否通知に関わる面接をしたとき、彼女の態度が悪く、私はとても怒った。「一生懸命やってダメなら仕方ないけど、やりきった感じが見えない。私はどうせという言い訳をするくらいなら、もう一度、一生懸命やってみなさい。あなたは、地元の美作短大しか通うことができないんよ。だから、もう一度、面接練習と作文をしっかりと書くことに力を注ごう。」と話した。彼女は、大泣きをしながら頷くだけで、私もバツが悪いので、もう一人の担任であった仲田という女性の先生にフォローをお願いして部屋を出た。それから、しばらく仲田先生と話をした。本人も、何か迷っていたようで、私の厳しい言葉を聞いて腹をくくれ、さっぱりとした表情で、次の日から頑張った。

通信制高校の魅力

毎日、作文・面接の練習。しかし、今度彼女は弱音をはかなかつた。自分には子どもがいるが、子育てをすることで、保育士への夢が見つかったこと、親として保育士にして欲しいことなどを自分なりの言葉で伝えられるようになった。

12月の推薦二期試験に挑戦。そこで、彼女はいい出会いがあった。面接してくれた教授が、通信制高校について、いろいろ質問をしてくれた。「どんな雰囲気为学校。」や「担当する先生との関わりは。」などを聞かれたようだ。本人も、しっかりと通信制の雰囲気や魅力をしっかりと述べる事ができた。そして、自分はこの学校しか通うことができない。ということも伝えたようだ。

そして、結果発表の日、書類は高校に届いた。見事合格。早速、自宅に電話をした。先ず、母親が電話で出て、本人に代わってくれるようお願いした。本人に代わると、「美作高校の山下です。本日美作短大の結果発表の日ですが、あなたは合格されました。」と伝えると、彼女は大きな声で泣き始めました。「おめでとう。」という私の言葉も涙で上手く伝えることができませんでした。こんなに一人の合格が嬉しかったことはないくらい、本当に感動したことを覚えている。

合格の書類を本人が取りに来た時、握手をして合格書類を渡した。その時、電話がかかってきた時、お母さんが「なんか、山下先生の声がうわずっていたから、合格かもしれない。」と思われていたようで、私も自然と喜びが出ていたのだと感じていた。

子どもの成長とともに母も成長へ

いよいよ春から女子大生となったミカさん。同じ美作高校の全日制から入学した学生と仲良くなり、学生生活がスタートした。育児と学生の両立はなかなか苦労したようであったが、子どもを寝かしつけてから、教科書を広げレポートや課題に取り組んだ。実習では、学生という立場と親としての目線から、一人ひとりの子どもの表情変化に気を配ることができるようになった。そして何よりも、日々成長する子どもの姿が見えることが、本人のやる気につながった。

2年後、就職試験が始まった。ミカさんは、本当のことを伝えて就職試験に挑もうと決めていた。どの学生よりも、子どもへの対応の仕方はわかっているということをアピールポイントとして、就職試験に挑んだ。ご理解がある保育園があり、彼女を正規職員として採用してくれた。

あれから、10数年が経過した。先日、この本作成のため、連絡を取った。いろいろな経験をしたが、今は子育てとご主人のために日々汗を流しながら、元気に過ごしていた。そして、ご主人のお父さん、お母さんにもとても優しくされ、幸せに暮らしている。「人生あきらめなければなんとかなる。」私の好きな言葉であるが、その言葉にぴったりするのがミカさんである。

(3) 高卒資格を持つ人の再教育の場

伝統文化継承に関する講義として、12月に行った羽出地区高齢者との交流会において、利用者とともに、「生け花」教室に参加した。講師役は、地元住民。地元の高齢者とともに、冬の花について勉強したあと、「生け花」を体験した。お正月が近いということもあり、正月の行事などについて話しながら、作品を完成していた。

その後、一人の生徒が折り紙を取り出し、高齢者にいろいろな折り方を伝授した。手先の器用な生徒であるため、高齢者に丁寧に指導する姿が印象的であった。

10月に行われた奥津キャンパスでの学習会には、多くの参加者があった。体育館で生徒だけでレクリエーション等を行い、友だちづくりを行ったあと、今度は校外にでかけウォークラリーを行った。これには、地元住民の方の参加もあり、チェックポイントにあるクイズの問題を一緒に解答する様子や地元鏡野町の町並みについて話す姿が見え、交流会としては大成功となった。

夏と冬の集中講座では、iPadを使用しての講座を実施した。その際、はじめは情報担当の村山教諭が使い方について説明を行った。その後、生徒が教師役を務め、地元高齢者に対して、iPadの使用の講習を行った。普段からスマートフォンなどを使い慣れていることもあり、生徒は使い方などを丁寧に教えていた。



交流会で生徒の自己肯定感が確立しました

(4) 開校した学校の活用

インターンシップ事業として、8月に行われた農業ボランティア講話、鏡野町社会福祉協議会の方による福祉講話を行い、「働くことの意義」について学ぶ機会があった。平成31年度は、果実栽培・加工事業にも挑戦する。



(5) 教育不足の解消

iPad を使用しての学習の成果として、NHK 高校講座の報告書作成し、成果物として添付する。また、そのことを単位の一部とした規定を作り、平成31年度より単位認定することとした。

2. 高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導充実事業に関わる検討会議報告

日 時：平成30年10月4日(木) 15:00～16:00

場 所：奥津キャンパス 旧職員室

出席者：

[外部メンバー]	津山市教育相談センター	鶴山塾 塾長	土居 勇人
	鏡野町総合政策室	室長	武本 学
	鏡野町総合政策室	主任	草苺 周作
	井坂地区町内会	会長	福井 裕
	元岡山県美作高等学校地域相談員		鈴木 覚
	岡山県美作高等学校地域相談員		川崎 雅史
[学園メンバー]	学校法人美学学園	事務局長	片山 学
	美作大学・美作大学短期大学部	副学長	長谷川 勝一
[高校メンバー]	岡山県美作高等学校	校長	早瀬 直紀
	岡山県美作高等学校	事務部長	前 克浩
	岡山県美作高等学校全日制課程	教頭	河本 幸雄

	岡山県美作高等学校全日制課程	教頭	神谷 大輔
	岡山県美作高等学校通信制課程	教頭	山下 武宏
	岡山県美作高等学校通信制課程	教諭	友光 美帆
	岡山県美作高等学校通信制課程	教諭	村山 直人
	岡山県美作高等学校	事務室長	竹内 正人
[欠席]	鏡野町教育委員会	教育長	年岡康雄（敬称略）

1. 開会挨拶（早瀬校長）

2. 概要説明（山下通信制課程教頭）

PowerPoint を用いて以下の項目について説明した。

- ① 本校通信制課程の概要
- ② 高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業の概要
- ③ 実践事例及び今後の予定

3. iPad 使用について（村山通信制課程教諭）

iPad を用いて「NHK 高校講座」を題材とした、実際の授業展開例と目的を説明した。

4. 質疑応答

[福井]火・水曜日の奥津キャンパスでの平日授業の時間帯は？

→津山からバスで通学しており、13 時頃到着のバスで来校する。下校は 16 時頃通過する津山行きに乗れる設定している。

※以下ご参加の外部メンバーよりご意見をいただいた。

[武本]旧奥津中学校の改修工事に時間がかかったことは申し訳なく思う。旧奥津中学校での活動について、行政としてできる限りのお手伝いをしたいと考える。

[草苺]旧奥津中学校の活用について当初からかかわっているので今後も協力したい。

[土居]通信制課程には鶴山塾の卒業生が大勢おり、元気になっていることをうれしく思う。今回の事業は、机につくだけでなく様々な体験をさせることを計画しており期待している。鶴山塾でも PR したい。

[福井]地域としてできる範囲で協力したい。旧奥津中学校を十分活用して、生徒の元気な声を響かせてほしい。

[鈴木]この場所で生徒の声が聞こえるのが良い。我々地域の人間も元気になる。待ちに待った活動である。「奥津キャンパス」という名称を掲げているのか？ 生徒達にここに来て学ぶという前向きな気持ちにしてやりたい。そこから自信や自立心が高ま

るのではないか。この「奥津キャンパス」がその一助となることを期待する。

[川崎]学校に行くことができない子どもとは、昔はヤンチャな者が多かった。現在は人間関係作りができなくて学校へ行くことができなくなっている。そんな子どもたちの未来をひらくきっかけになるのが通信制課程ではないか。課題として通信制課程を卒業後の就職進学など出口をどうするのか。生徒が地域・人とつながることができるようになることが大切である。今回の取り組みは、まさに地域・人とつながる大切なことであり期待している。

[片山]同じ学園としていい取り組みをしていることをうれしく思う。通信制課程の卒業生がどういうところで活躍するのか、キャリア展望を示すと良い。藤原理事長は中学卒業後直接通信制課程に進学する生徒を心配している。今回の取り組みは、不登校の生徒達に未来を与える取り組みであり、全国のモデルパターンになることを期待する。併せて大きな卒業成長値を示すことを期待する。

[長谷川]NHK 高校講座を活用できる iPad や Wifi などの環境が整っていると感じた。平日授業は引率教員が1名で、専門外の教科は予習・復習を主とするとの説明があったが、この環境下でスカイプなどを利用して本校の先生に質問し指導を受けることも可能ではないか。

生まれた時から引きこもりの生徒はいない。何かでつまずき自信を喪失している。ボタンの掛け違いは元に戻って直すしかないが、きっかけはどこにあるかわからない。自分の価値を確認できる何かがあるかもしれない。今回の取り組みはそのための学びの場として価値がある。

「若者と年寄りの友達は宝である」という格言がある。日々の授業の中で勉強したことが実社会で役に立つことは少ないかもしれないが、友達との会話の中で生まれる発想は宝になる。今回の通信制課程の取り組みは非常に面白い教育活動である。

[山下]最後にご報告とお願い。今回の事業費で畳を購入した。コタツも購入予定である。平日授業の日に地域の方に立ち寄っていただき、生徒たちとこの場で膝を突き合わせて、今回報告させていただいた、お互いが生徒になりあるいは先生になるなどの交流を深めていきたい。

[福井]交流することが学習につながる。非常に良い取り組みと思う。

5. 閉会挨拶（前事務部長）

3. 成果

(1) ひきこもり、無職・無就学生徒の解消に向けた教育実践活動のなかで

実際に参加している生徒のひとりが、平成 31 年度通信制課程進学説明会【中学生向け】において、生徒代表として通信制課程の様子や奥津キャンパスでの学習会について体験発表を行うことができるなど、着実に成長する姿が見えた。その作文を紹介したい。

通信制高校で学んでみて

みなさんこんにちは。僕は、今 1 年生に在籍しています。中学時代までは、不登校でした。学校に行くと体調が悪くなり、途中で帰ったりしていました。中学校の先生から、「自分のペースで学習できる通信制高校」のを知り、美作高校の説明会にも参加しました。

通信制では、いろいろな年齢の人がいたり、仕事をしている人、髪の毛が金髪や緑色の人もいることを知り、この学校だったら通えるかもしれないと思い、入学を決めました。

しかし、担任の先生は、最後まで「全日制の高校はいっぱいあるから、受験してみてもいいよ。」と言ってくれましたが、自分はこの学校だと決めていたので、受験はしませんでした。

入学してから感じたことをいいます。それは、今まで勉強しておけばよかったということです。通信制は、自宅でのレポート作成があります。1 日 1 時間くらい勉強をするようにしていますが、最初の頃は、レポート 1 枚するのに、2 時間くらいかかっていました。勉強することは大切なことなんだということを高校に入ってわかりました。みなさんも、今少しは勉強しておいたほうがよいですよ。

今、僕は日曜日だけでなく、火曜日に奥津に行って学習を行っています。担任の先生や教頭先生と一緒にバスや車に乗って行っています。少人数での学習会のため、毎回気楽に参加できています。これからも、地元のお年寄りとの交流会もあります。勉強だけでなく、人の関わり方も学んでいきたいと思います。

以上で、僕の発表を終わります。

人の目が気になり、大勢の中で過ごすことに苦痛を感じていた生徒が、自分が不登校であったが、今は頑張っていることを伝えようとする、人前で緊張しながらも話す姿を見て、感動するだけでなく、自己肯定感の確立を感じる発表であった。当日、母親も本人の発表を聞いていたが、「1 年前には考えられないくらい成長している。」と話す姿が印象的であった。

このことは、今年 1 年の成果に値すると考える。

(2) 高卒資格を持つ人の再教育の場

特技の折り紙の技を披露したことで、地元人から「先生、すごいな。」や「こっちでも教えて。」という声が続くなど、生徒も嬉しそうにしていた。それだけでなく、自己肯定感の

確立につながったと考える。

(3) 教師の価値観変化

最後に、このことは生徒に関わる成果ではないが、われわれ教師の成長につながる事業であったと考える。普段高校の教師は、15歳～18歳の高校生を対象に、授業や部活動などの指導を行う。そのため、経験値が高くなると、「この生徒は、こんな性格だろう。」や「こう指導すれば間違いはない。」など、自分の経験から判断し、生徒を指導することが多い。しかし、今回の事業を通して、その価値観が変化した教師が多く出現した。例えば、不登校傾向の生徒は、会に参加しただけでも立派と考える教師が多いなか、地元の方は、「せっかく参加したのだから、こちらに来て一緒に折り紙おろう。」や「挨拶する時は、人の目を見て、大きな声でしましょう。」など、遠慮なく話した。生徒も最初はびっくりした表情をしていたが、すぐに学校では見せないような表情となり、大きな声で話をしていた。

それを見ていた教師は、自分たちが今まで行っていた生徒への支援方法に変化を持たせることが必要であると感じた。そして、生徒への「**配慮**」は大切であるが、「**遠慮**」はいけないことを学んだと口にする教師がいた。

本事業を通して、生徒だけでなくわれわれ教師も成長していくことを感じる場面であった。

4. 課題

学校から約40分離れているという場所の問題。そして通信制教員の全日制との兼務による負担増の問題。地域人がなかなか学校に足を踏み入れない環境などが課題としてあげられる。そういったなか、平成31年度は、現在活動している地域人の「シニアスクール」との連携を図り、生徒と地域人が一緒に学ぶ機会を増やすよう、包括協定を結んでいる鏡野町とさらなる連携を強化した活動を計画している。そして、町の広報誌などにもこういった取り組みを紹介することで、一人でも多くの方との交流を実現できるような活動を実施したいと考える。

また、第1回検討会議では、地域、行政、学園三者に通信制課程の新たな取り組みを理解していただいた。その中でスカイプを利用した指導方法や、「奥津キャンパス」という看板を掲げることが生徒の前向きな気持ちにするのではないかなど提案をいただいた。

今回いただいたご提案を参考に、次年度の活動に生かしていきたいと考える。

以上